

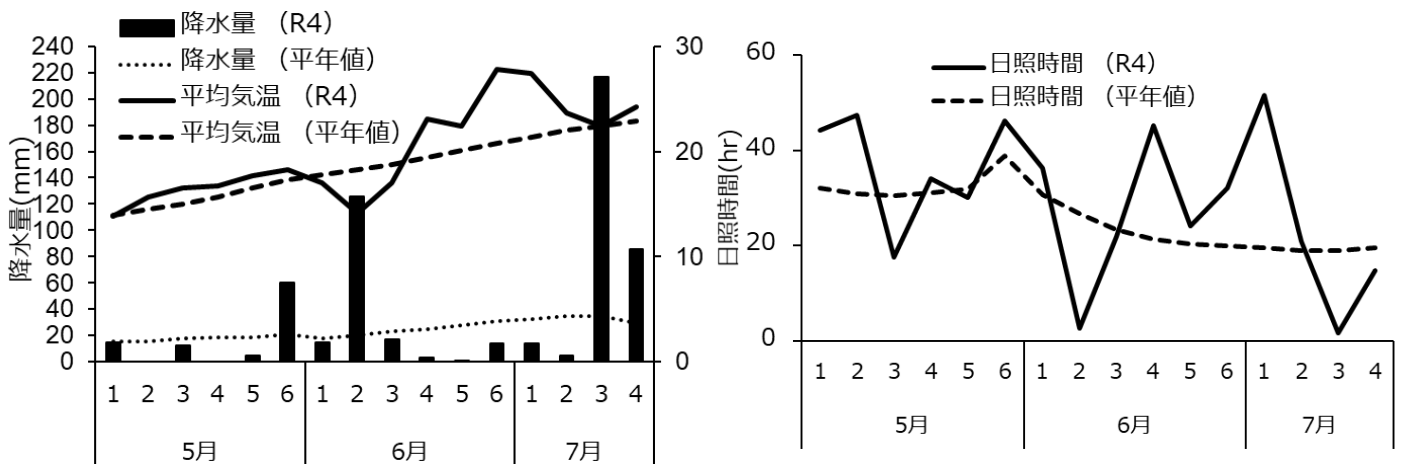
仙台稲作情報 2022 (第6号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
 ホームページ : <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/techno-rice.html>

栽培管理のポイント

- ▷追肥や斑点米カメムシ類の防除等は、生育ステージを確認して実施しましょう。
- ▷適切な水管理により高温障害を回避しましょう。

1 気象経過



2 管内の生育状況 (7月20日の調査結果)

(1) 移植栽培 (ひとめぼれ)

- ・草丈は 72.4cm (管内平均) で概ね前年及び平年並、茎数は 489 本/m² (同) で、最高分げつ期を過ぎていることから前回調査より減少しています。葉色 (GM 値) は 34.2 で、減数分裂期の目安 (35~37) を概ね確保しています。
- ・幼穂長は 52.3mm (同) となっております。幼穂の伸長は前年より遅れていますが、生育のばらつきが大きく、既に減数分裂期に達しているほ場もありました。

表1 7月20日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/15	72.5	102	108	371	86	91	39.0	+3.0	+0.5	17.3	-44.7	-10.7
	北部平坦	大郷町鶉崎	5/16	73.6	91	102	542	107	97	30.0	-8.2	-7.9	13.7	-39.3	-10.8
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	71.2	99	102	553	94	107	33.5	-2.0	-5.2	126	-53.0	+27.4
	管内平均			72.4	97	104	489	96	99	34.2	-2.4	-4.2	52.3	-45.7	+2.0
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	5/12	79.1		111	462		81	36.3		-0.7	65.8		+40.2
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/7	77.5	101	105	535	112	112	37.5	+0.8	-0.9	52.8	-27.2	+11.6
	管内平均			78.3		108	498		96	36.9		-0.8	59.3		+25.9
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5/20	77.0	101	106	398	111	97	36.5	-0.3	-1.7	2.1	-7.6	-3.2
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	86.6			395			41.7			61.9		
	管内平均			81.8			396			39.1			32.0		
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/18	73.1			393			38.8			1.4		

※平年とは、直近3か年の平均値。ただし、大和町鶴巣「ササニシキ」は、前年 (R3) の調査を実施していないため、平成30年から令和2年までの3か年平均。

(2) 乾田直播栽培

草丈は73.0cm、茎数は608本/m²と前回値より減少しています。葉色(GM値)は35.7で、幼穂形成期の葉色は確保しています。幼穂形成始期は7月15日で、7月20日現在の幼穂長は7.1mmとなっています。

表2 7月20日の調査結果

場所 (地帯区分)	播種日 (月/日)	出芽日 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	7月11日				7月20日			
				草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)
仙台市若林区 (仙台湾沿岸)	4/10	5/11	142	62.4	684	38.8	0.6	73.0	608	35.7	7.1

【生育状況】



6/10

6/20

7/1

7/11

7/20

3 地帯別生育ステージの予測

管内における出穂期の予測は以下のとおりです。

表3 出穂期の予測 (7月20日現在)

出穂始期	出穂盛期	出穂終期
7/30	8/3	8/7

※出穂始期、出穂盛期、出穂終期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%以上が出穂した日

4 本田管理

(1) 移植栽培

1) 水管理

- 出穂期までは飽水管理とし、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持しましょう。
- 出穂後は、登熟の良化及び根の活力維持のため、間断かんがいを実施しましょう。
- 出穂後5～15日の最低気温23℃以上が連続する高温の場合、白未熟粒が多発し、品質の著しい低下を招く危険性があります。緊急的な対策として、十分な用水量を必要とする「掛け流しかんがい」よりも効果は小さいものの、①走り水により土壌をつねに湿潤状態に保つ「保水管理」または②高温時の昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする「昼間深水・夜間落水管理」が有効です。

2) 追肥

- ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、**穂揃期の葉色維持**に努めましょう。
- ほ場により生育が異なるので、幼穂長や葉耳間長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- 基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いませんが、葉色が落ちる場合は、追肥を検討しましょう。
- 「だて正夢」は、葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ、色が濃くなり、追肥を抑えられがちですが、穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて適正な追肥を実施しましょう。
- 「金のいぶき」の葉色は、幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので、追肥をする際は葉色に注意しましょう。

表4 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	-10～0cm	15～10日

表 5 生育ステージにおける葉色の目安 ※葉緑素計 (GM 値)

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38~40	35~37
ササニシキ	34~36	32~34
だて正夢	40~42	37~39
金のいぶき	33~35	30~32
つや姫	35~37	31~33
まなむすめ	35~37	36~38

表 6 追肥の目安

品 種	窒素施用量 (成分量/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ・金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0~1.5 kg
つや姫・まなむすめ	2.0 k g	—
だて正夢	— (茎数が少ない場合は 1.0kg)	2.0kg (幼穂形成期に 1.0kg 追肥 した場合は 1.0kg)

3) 病害虫防除

①いもち病

- ・ **7月7日以降**, ほぼ県内全域で葉いもちの感染好適条件が出現していますので, 発生に注意が必要です。
- ・ 7月中旬以降は, 予防粒剤 (箱施用剤, 水面施用剤) の効果が低下し始めるとともに, 追肥で葉色が濃くなり, 葉いもちが感染しやすい環境となります。
- ・ 上位葉での葉いもちの発生は, 穂いもちの重要な伝染源になります。ほ場をよく観察し, 発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。

②紋枯病

- ・ 出穂期前からの発病は, 被害が大きくなるので, 発生に注意しましょう。
- ・ 前年に発生が多かったほ場では, 多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤, 出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・ 病斑は, 水際の葉鞘に現れるので, 茎葉散布剤による防除では, 株元に薬剤 (液剤, 水和剤, 粉剤) がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。

③斑点米カメムシ類

- ・ 水田畦畔の草刈りは, 水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むこととなります。草刈りは**出穂の10日前まで**に終わらせましょう。また, 草刈りの再開は9月に入ってからにしましょう。
- ・ 薬剤防除は, **穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本**です。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は, 追加防除を実施しましょう。
- ・ イヌホタルイが発生した水田で除草できなかった場合は, 1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで, 斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。

(2) 乾田直播栽培

基本的には移植栽培と同じ管理になりますので, 上記 (1) 移植栽培を参考にしてください。

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し (7/21 仙台管区气象台発表)

予報のポイント

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため, 向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・ 高気圧に覆われやすいため, 向こう1か月の日照時間は平年並か多い見込みです。

次回の稲作情報第7号は, 8月下旬頃の発行となります。